



- P1 株主のみなさまへ
- P6 グループ企業のご紹介
- P7 工事实績のご紹介
- P9 下半期トピックス
- P11 技術のご紹介
- P12 海外での事業展開
- P13 財務情報



### ごあいさつ

株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。当期(平成25年4月1日～平成26年3月31日)の決算概要とともに、経営における取り組みと課題認識、次期の方針につきましてご報告いたします。

代表取締役社長

今井雅則

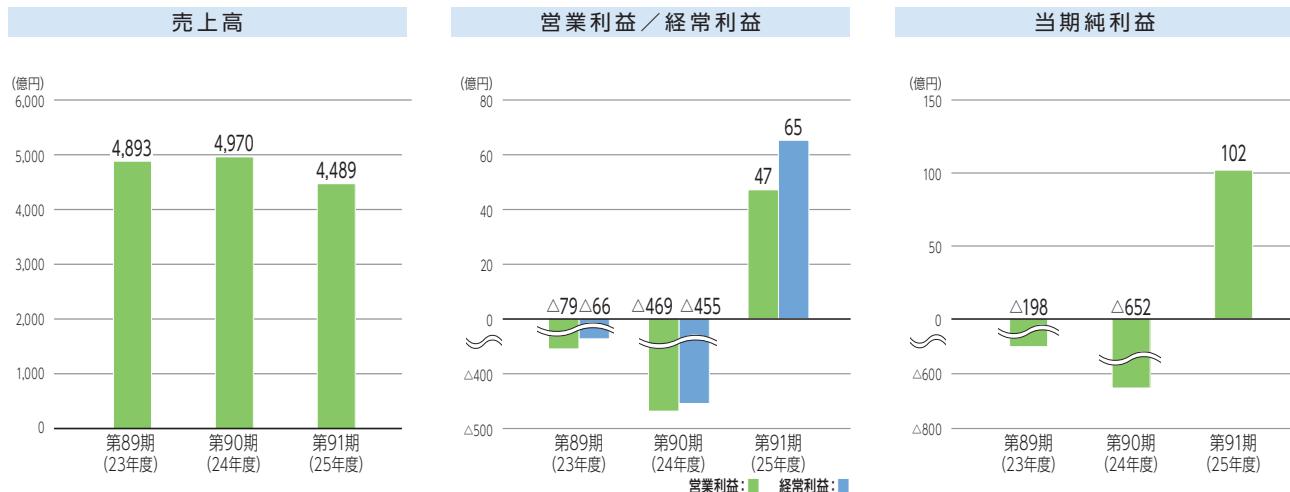
## 当期の概況

当期における国内景気は、設備投資や雇用情勢、個人消費等に改善が見られるなど、緩やかな回復基調で推移いたしました。建設業界においては、震災復興、消費税引き上げに伴う駆け込み需要等により、官公庁工事、民間工事とも大幅に増加しました。一方では、資材価格の高騰、労務不足等の深刻化が懸念されるなど、全体としては厳しい経営環境が続いております。

このような状況の中、当社グループの業績は、連結売上高は、主に当社及び国内子会社における完成工事高が減少したことにより、前期比9.7%減の4,489億円と

なりました。営業損益については、建設事業について前期に採算重視の受注方針への転換を行ったことや慎重な工事収益の見積りを実施したことにより、完成工事総利益率が向上した結果、47億円の営業利益(前期は469億円の営業損失)となりました。また、投資有価証券の保有状況を見直し、売却を進めたことにより、投資有価証券売却益41億円を特別利益に計上した結果、102億円の当期純利益(前期は652億円の当期純損失)となりました。

## 財務ハイライト(連結)



## 当期の取り組み

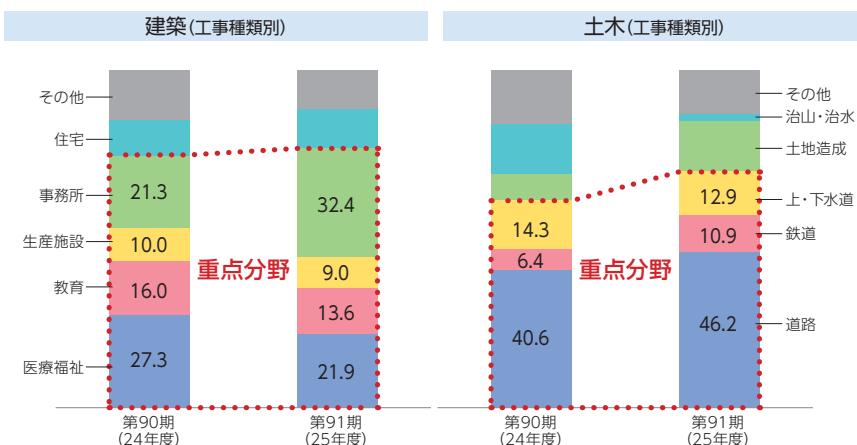
前期の業績悪化を受け、当期の取り組み課題として2つの事項を期初より掲げてまいりました。

まず、一つ目は「黒字化に万全を期す」ことです。そのために、選択受注の徹底、受注管理体制の強化、工事採算の管理などの改善施策に取り組んでまいりました。その結果、営業利益が黒字転換するほか、自己資本比率につきましても29.1%と、4.4ポイント向上いたしました。また、受注面におきましては、医療福祉施設、事務所、道路といった重点分野の構成比率が高まるとともに、受注時利益率も前期より改善しております。

もう一つは「収益力を再生する」ことです。これに向けた社内インフラの整備として、本年1月および4月に本社機構改革を実施し、価値創造推進室、海外事業部、投資開発プロジェクト室、グループ統括室を新設いたしました。また、竣工後のアフターケア事業の強化を目的に、連結子会社の千代田土地建物(株)と戸田リフォーム(株)が合併して、新たに戸田ビルパートナーズ(株)を設立いたしました。今後は、これらの組織を通じた活動に軸足を移し、「価値ある戸田建設」という方針の具現化に向けた取り組みを強化してまいります。

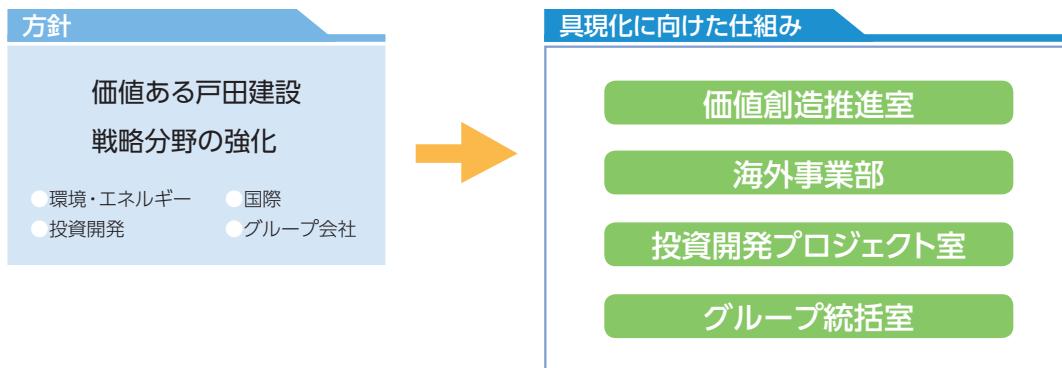
## ● 受注構成比率(個別)

選択受注の徹底により、医療福祉施設、事務所、道路分野で安定した受注を確保し、重点分野の構成比率が高まっています。なお、事務所につきましては大手町一丁目第3地区再開発(東京都千代田区)の受注が寄与しています。



## ● 本社機構改革の実施

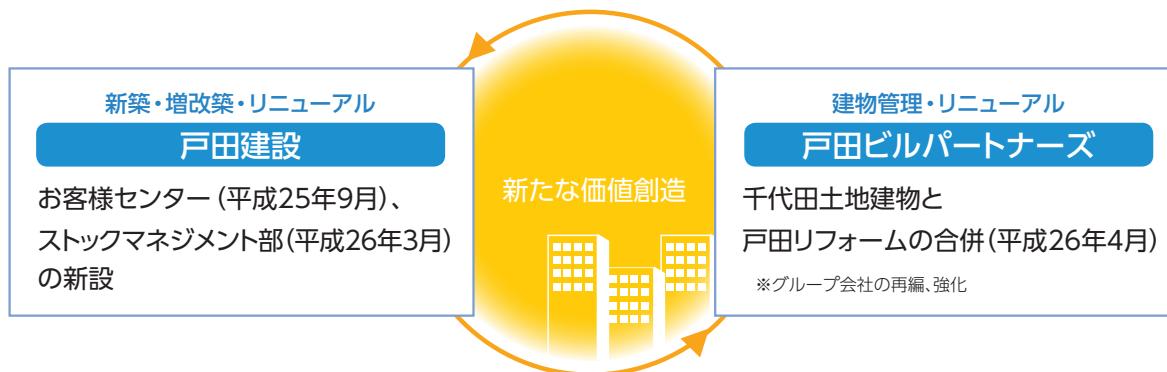
「価値ある戸田建設」「戦略分野の強化」という方針を具現化すべく、4つの新組織（統轄部・事業部相当）を設置しました。明確な責任・推進体制のもと、収益力向上に向けて取り組んでいきます。



※いずれも「統轄部・事業部」相当

## ● アフターケア事業の再編

戸田建設にお客様センター、ストックマネジメント部を新設するとともに、グループ会社を再編し、新たに戸田ビルパートナーズ(株)を設立しました。建設ライフサイクルにおける取り組みを強化し、新たな価値創造に取り組んでいきます。



営業面におけるコラボレーション／情報基盤の共有化

## 次期の方針

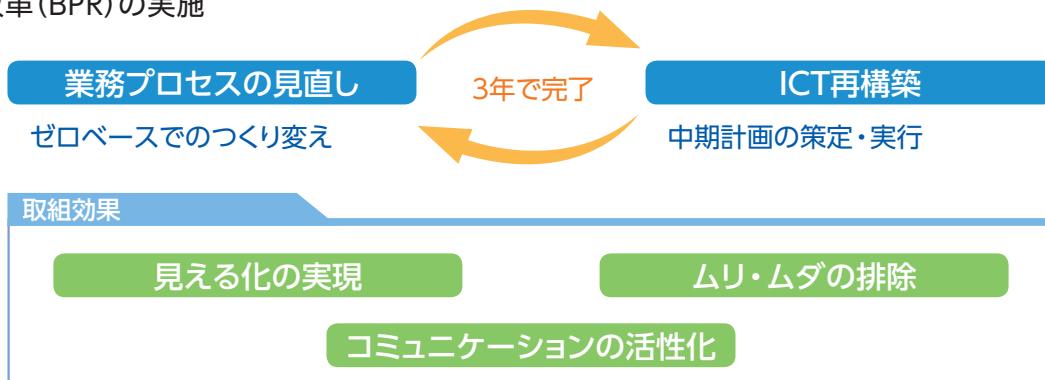
次期、第92期は前述の新組織を軌道に乗せるとともに、社内の業務プロセスの見直し・改善に取り組み、強靱な企業体質を構築してまいります。

競争の激化に加え、労務不足が深刻化するなど、経営環境の厳しさが増しております。そのような中で成長を果たすためには、お客様価値の創造とともに、生産性向上に向けた取り組みが必須となっております。こうした状況を踏まえ、第92期は全社的な業務改革(BPR: Business Process Re-engineering)を実施いたします。これは、現在の全業務プロセスをゼロベースで見直し、同時にICT (Information and Communication Technology: 情報コミュニケー

ション技術)の再構築を推進して合理化を図っていくものです。このことにより生産性の向上はもとより、経営資源をお客様により近い部門、より高い収益が見込まれる分野にシフトさせ、収益力の更なる向上を実現してまいります。

平成26年6月には取締役会の機能強化として社外取締役2名を選任し、あわせて取締役候補及び執行部門重要人事に係る人事委員会(委員長:社外取締役)を設置いたしました。強固なガバナンス体制を確立し、持続的成長に向けて引き続き取り組んでまいります。株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

### ●業務改革(BPR)の実施



**業務プロセスを見直し、ICTによって更なる合理化を推進**

# グループ企業のご紹介



戸田建設グループ

## 戸田ビルパートナーズ株式会社

### 会社概要

商号	戸田ビルパートナーズ(株)
設立	1962年(昭和37年)4月2日
資本金	1億円
株主	戸田建設(株) 他
売上高	83億3,800万円(2013年度)
従業員	520名(2014年4月)

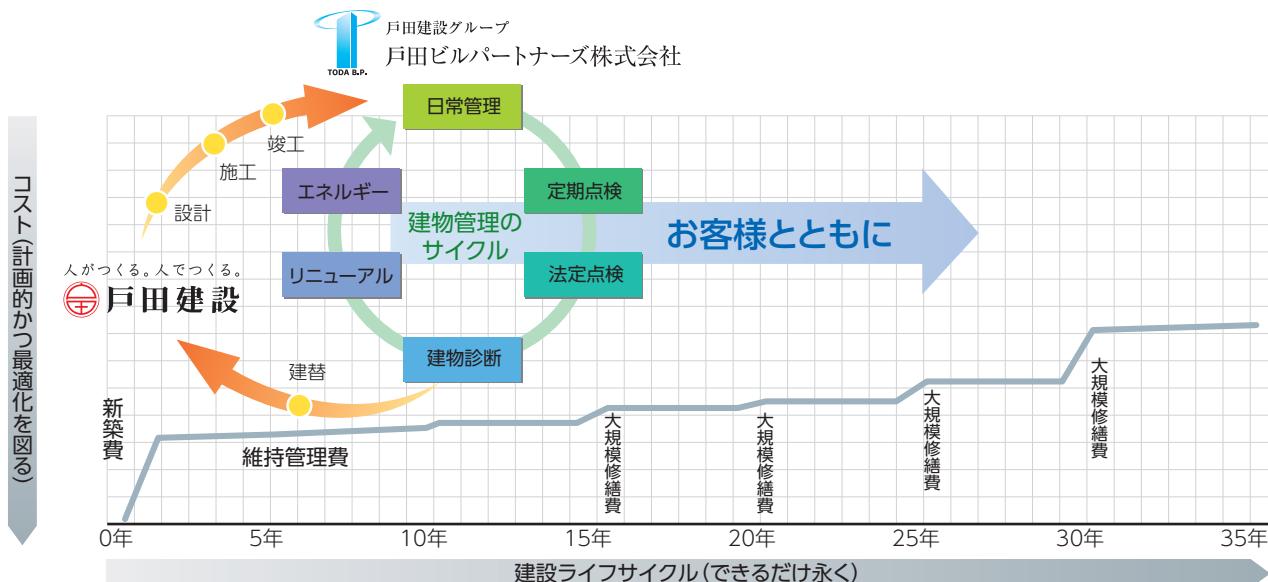
私たちが大切にしたいのは、戸田建設グループの特色である誠実さを基盤に「心地よさ」と「安心」を追求し続けること。さらに、お客様と同じ目線でともに未来を見据え、ビル全体の価値を高める取り組みを提案し続けること。

建物の一生を見守り続けてきた私たちは、50年の歴史を礎に、さらなる飛躍を目指します。

### 建物の一生をトータルサポートする5つの事業。

- 1 建物管理**
  - 設備 ● 設備機器故障の未然防止とともに効率的な運用をご提案
  - 清掃 ● 建物用途に合わせ適切な清掃管理で、建物の価値を維持
  - 警備 ● 警備のプロが、お客様に安心と信頼をご提供
  - マンション ● 管理組合運営業務から資産の維持向上へのサポート
- 2 リニューアル** ● 建物の機能向上に向けてのサポート
- 3 エネルギー** ● 省エネ診断やエネルギーの見える化、エネルギーに関する課題解決をサポート
- 4 不動産** ● 賃貸、仲介、宅地分譲の各事業を展開 ● プロパティ・マネジメントでビル運営を支援
- 5 保険** ● 建設工事保険、賠償責任保険など各種損害保険や生命保険をご提案

戸田建設との連携で建物の寿命を永く保ち、価値をより高める質の高いサービスをご提供します。



# 工事实績のご紹介

## 当期の完成・受注工事

当社では、機能性や品質に優れ、安心・安全で、環境に配慮した建設物を実現することで、建設業としての企業の社会的責任を果たしています。当期における主な完成・受注工事をご紹介します。

### 京橋トラストタワー新築工事



工事名称 京橋トラストタワー新築工事  
工事場所 東京都  
発注者 森トラスト(株)  
竣工月 平成26年2月  
工事概要 S造(柱CFT) SRC造  
地上21階 地下3階 塔屋2階  
床面積52,470.87m<sup>2</sup>  
用途 事務所、ホテル、飲食店舗、駐車場

### 大阪府立精神医療センター再編整備事業



工事名称 大阪府立精神医療センター再編整備事業(PFI)  
工事場所 大阪府  
発注者 大阪ハートケアパートナーズ(株)(SPC)  
竣工月 平成26年2月  
工事概要 18棟 床面積30,154.43m<sup>2</sup>  
児童思春期棟 RC造 地上2階 地下1階  
本館棟 RC造 地上3階 塔屋1階  
成人棟 RC造 地上4階  
医療観察棟 RC造 地上2階  
体育館棟 RC造 地上3階  
刀根山支援学校棟 RC造 地上2階  
その他付属棟  
用途 病院



ヤクルト本社 中央研究所 第2期工事 医薬品・化粧品研究棟新築工事(B工区)



- 工事名称 ヤクルト本社 中央研究所 第2期工事  
医薬品・化粧品研究棟新築工事(B工区)
- 工事場所 東京都
- 発注者 (株)ヤクルト本社
- 竣工月 平成26年3月
- 工事概要 SRC造 地上5階  
床面積9,249.33m<sup>2</sup>
- 用途 研究施設

しちやま 駒山バイパス福部砂丘トンネル工事



- 工事名称 駒山バイパス福部砂丘トンネル工事
- 工事場所 鳥取県
- 発注者 中国地方整備局
- 竣工月 平成25年10月
- 工事概要 工事延長:590m  
ボックスカルバート工:543m  
(内空幅10.6m×高さ6.0m、掘削96,000m<sup>3</sup>、  
生コン24,714m<sup>3</sup>、鉄筋4,203t)  
擁壁工一式、側溝工一式  
仮設工(鋼矢板Ⅲ型・Ⅳ型 L=10.5m~20.5m  
2,053枚、切梁腹起し3,737t、  
地中連続壁SMWφ650mm 4,553m<sup>2</sup>)
- 用途 道路

■ 当期における主な完成工事(中間報告書掲載工事を除く)

- ・日揮(株)他 精神医療センター整備運営事業 建設工事
- ・任天堂(株) (仮称)N新社屋建設工事
- ・埼玉県 埼玉県立がんセンター新病院建設工事
- ・宮城県大崎市 大崎市民病院本院建設事業
- ・宮城県  
災害廃棄物処理業務(巨理名取ブロック(巨理処理区))(JM)
- ・西日本高速道路(株) 東九州自動車道 泉工事
- ・関東地方整備局 中部横断醍醐山トンネル(その2)工事
- ・西日本高速道路(株) 東九州自動車道 延永工事

■ 当期における主な受注工事(中間報告書掲載工事を除く)

- ・独立行政法人 国立病院機構九州がんセンター  
九州がんセンター新築工事(建築)
- ・医療法人社団筑波記念会  
筑波記念病院 中央棟増築工事
- ・東北地方整備局  
国道45号 下安家道路工事
- ・鉄道建設・運輸施設整備支援機構 北海道新幹線建設局  
北海道新幹線、立岩トンネル(立岩)他
- ・東日本高速道路(株) 東関東自動車道 紅葉工事

## 下半期 トピックス



2013年

10月

### 大規模エネルギー蓄積機能を持つ 『海洋インバースダム』の実現に向けた検討開始

2013年10月4日(金)、京都大学を中核に当社をはじめとした企業が結集し、海水揚水発電の基本技術に着目した大規模エネルギー蓄積機能を持つ海洋インバースダムの研究開発および建設提案を目的とするコンソーシアム「海洋インバースダムの会」を立ち上げました。その開発および実用化に向けた検討をすすめることとなりました。



### 国内初! 商用規模浮体式洋上風力発電施設による運転を開始

このたび、当社が代表をつとめる環境省浮体式洋上風力発電実証事業委託業務の受託者グループは、長崎県五島市杵島周辺海域において、商用規模浮体式洋上風力発電施設として我が国初、また、ハイブリッドスパーク型としては世界初となる2MW風車を搭載した浮体式洋上風力発電施設による運転を開始しました。

石原環境大臣出席のもと10月28日に開所式を行い、設置した風車は、「はえんかぜ」と命名されました。引き続き、我が国における浮体式洋上風力発電の早期実用化に向けて、本事業に鋭意取り組んでいきます。

浮体構造としては、浮体上部には鋼、下部にはコンクリートを使用する「ハイブリッドスパーク型」と呼ばれる形式を採用しています。コンクリートは水圧や錆にも強いため、これを浮体下部に用いることでコストダウンを図るとともに、重心を下げ安定性も向上させています。

2014年

1月

### エッジ効果抑制パネル「エッジサイレンサー」の開発

当社と学校法人関西大学は共同で、防音壁などの先端部に取り付けることで大きな騒音低減効果が得られるエッジ効果抑制パネル「エッジサイレンサー」を開発し、建設現場の周辺に設置する仮囲いに適用しました。

関西大学・河井康人教授(環境都市工学部 建築学科)が提唱する防音壁の騒音低減効果向上に関する理論を実用化したものです。従来よりも低くて軽い高性能防音壁を実現しました。高さを抑えることができるため、工事現場の周囲に与える圧迫感を低減することにもつながります。

今後は建設現場で発生する騒音の低減に加え、屋外に設置される設備機械等から発生する騒音の低減対策にも利用し、周辺環境にやさしい技術として積極的に展開していきます。



1月

## 戸田ビルパートナーズ(株)の設立を決定

当社は、2014年4月1日にグループ会社の千代田土地建物(株)と戸田リフォーム(株)を合併し、戸田ビルパートナーズ(株)を設立することを決め、1月31日、両当事者会社の合意のもと合併契約書に調印しました。

当社では「価値ある戸田建設」を目指して戦略分野を定め、当期より様々な取り組みを始めています。戸田ビルパートナーズ(株)の設立は、その戦略分野の一つであるグループ会社の強化の一環として行われたものです。

この再編により、建物管理を主な事業とする千代田土地建物(株)とリニューアル工事を主な事業とする戸田リフォーム(株)が合併し、建物の管理およびメンテナンスからリニューアルまで、建物のライフサイクルに応じたサービスを、お客さまへ一貫して提供する体制を構築しました。▶▶ 詳しくはP.6(グループ企業のご紹介)をご覧ください。

2月

## 卓上型除菌ユニット「ダブルセイフティキット2+」を販売

当社は、卓上型除菌ユニット「ダブルセイフティキット2+(ツープラス)」を開発し、販売を開始しました。

当社では2012年に学校法人北里研究所 北里大学メディカルセンター、サムスン電子(株)およびマイクロウェバー(株)と共同して、病院建築やオフィスビルをはじめとした建築空調設備向けの除菌空調システムを開発しています。既に導入実績があり、お客さまからも高い評価を得ています。この技術を活用し、一般消費者向けに優れた除菌効果を持つ卓上型除菌ユニットを開発しました。

イオンの効果と、ヨウ素の殺菌効果を活用した、ダブルの力で空気中の菌・ウイルスを99%以上除菌できる卓上型除菌ユニットです。国内では当社だけが使用可能な独自の技術の組み合わせです。コンパクトで運転音も静かなので、寝室に置いたりオフィスのデスクの上に置いて使用できます。



**商品のご購入・お問合せ先** 千代田建工(株) TEL:03-5643-2442 URL:<http://www.chiyodakenkou.co.jp/>

## メガソーラー発電事業に参画

当社は、(株)ダイヤモンドソーラー・ジャパン(三菱商事(株)の100%出資会社)、三菱UFJリース(株)と共同出資して2013年5月に設立した長崎田手原ソーラー合同会社を事業主体として、長崎県長崎市田手原においてモジュール容量13.2MWのメガソーラー発電所に取り組みます。



長崎田手原メガソーラー発電所の建設地にはゴルフ場跡地を活用しています。ゴルフ場跡地約112haのうち開発済みの土地を含む約28haに、太陽光パネル(三菱電機(株)製)50,554枚を配置する大規模な発電所計画です。初年度想定の間年発電量は約1,300万kWhであり、一般家庭の約3,500世帯分の電力使用量に相当します。発電事業の開始は2015年4月15日を予定しています。

当社は、発電事業者として参画する今回のプロジェクトを通じて、企画段階から設計・調達・施工、運用段階までのノウハウを獲得していきます。今後はメガソーラー発電事業においてはEPC\*事業者のみならず、発電事業者としても参画していく考えです。

**用語** ▶ EPC

設計(Engineering)、調達(Procurement)、建設(Construction)を請け負う業務

## BCP(事業継続計画)をトータルサポートする戸田建設の技術

当社は、地震時BCP支援を行うトップゼネコンとして様々な技術開発を行っています。  
当社が提供する地震時BCP支援技術の一部をご紹介します。



### ビルメディカルシステム(建物モニタリング診断システム)を開発

「建物の安全・安心情報の見える化」でBCPをサポート

当社は、地震時に建物の揺れ状況、建物健全性判断を即座に利用者へ情報伝達できるビルメディカルシステムを開発し、都心部に建設される超高層オフィスビルや超高層マンションへ導入しています。

従来、巨大地震の際には建築技術者が建物の被災状況を確認し健全性を判定していましたが、時間がかかることや目視検査が中心となるため躯体の健全性を定量的に把握することが困難でした。ビルメディカルシステムは、巨大地震によって建物が大きな揺れを受けた際に、コンピュータを搭載した感振センサを活用して地震時における建物の健全性を即座に判断します。そのため、建物使用者や管理者は実データに基づいた初動体制を整えることができ、落ち着いた対応が可能となります。

今後、当社は主要都市の超高層建築物をはじめとし災害時に重要な拠点となる病院、公共施設などのBCP(事業継続計画)対策を支援するツールとして技術提案を積極的に展開していく予定です。

#### 【システムの主な特長】

- 1 ▶ 代表階の震度、建物の揺れの大きさ、建物の健全性の診断結果をモニター画面にわかりやすく表示
- 2 ▶ インターホン表示画面や放送設備と組み合わせることで、管理者だけでなく建物使用者にもアナウンスが可能
- 3 ▶ インターネット経由で専用診断サーバと接続することにより、詳細な診断も可能
- 4 ▶ ビル管理システムと組み合わせることが可能
- 5 ▶ 従来型のセンサによるシステム構築と比較し、約半額と廉価
- 6 ▶ 感振センサの自己診断機能により保守点検不要



超高層オフィスビルへの導入事例  
(京橋トラストタワー)



モニター画面例

# 海外での事業展開

## 世界に広がるネットワーク

2014年4月、当社では今後更に海外を重要視していく必要があるという認識の下、「お客様対応のより一層の充実」と「海外事業の拡大」のため「国際支店」を「本社海外事業部」に事業部化し、更なる体制強化を行いました。

当社の海外事業は、ブラジル・タイ・ベトナム・フィリピン・中国に拠点を置く連結子会社5社での民間建築工事を主軸とし、日本政府無償援助工事、アメリカでの不動産事業と3つの事業で形成しています。

海外事業の中心となるのが海外事業売上のおよそ5割前後を占めるブラジルです。ブラジルでは日系・非日系企業の生産施設のほか、当社が得意とする病院・学校分野も手掛けています。現在は建築が主体ですが、将来的にはM&A等も視野に土木分野への進出を目指して参ります。

### 海外年表

1910年	日英博覧会 出品陳列館建設
1914年	パナマ運河開通記念 パナマ太平洋万国博覧会 日本出品陳列館建設
1972年	戸田ブラジル設立 戸田アメリカ設立
1987年	上海市で日系建設企業初の中国との合併建設企業 上海住益戸田建設有限公司設立(現在の戸田上海)
1988年	タイ戸田設立
2009年	戸田ベトナム設立
2010年	海外進出100周年
2011年	戸田フィリピン設立
2012年	戸田ブラジル及び戸田アメリカ設立40周年 東南アジア統括事務所設立
2013年	ジャカルタ駐在員事務所設立
2014年	国際支店を海外事業部とし、体制を強化

(施工実績 38か国)

東南アジアも海外事業の一翼を担うべく注力しているエリアです。昨年、同地区に展開する連結子会社を支援する「東南アジア統括事務所」へ駐在員を増員、同4月にはインドネシアに「ジャカルタ駐在員事務所」を開設しました。

新生「海外事業部」は常に有望マーケットを探り、引き続き事業の拡大を目指して参ります。



スミトモ ラバード ブラジル  
新工場  
(2013年竣工:ブラジル)



サイアム中庸株式会社  
新工場  
(2013年竣工:タイ)

### 連結損益計算書のポイント

(単位: 億円)

実績	第90期 (24年度)	第91期 (25年度)
売上高	4,970	4,489
売上総利益(△損失)	△ 246	254
販売費及び一般管理費	223	206
営業利益(△損失)	△ 469	47
営業外収支	14	18
経常利益(△損失)	△ 455	65
特別損益	△ 22	44
税金等調整前当期純利益(△損失)	△ 478	110
法人税等	171	5
少数株主利益	2	2
当期純利益(△損失)	△ 652	102

#### Point 1 売上総利益率の改善

建設事業において、前期に採算重視の受注方針への転換を行ったことにより、完成工事高は減少しましたが、受注管理体制の強化や工事採算の管理等の改善施策を実施したことにより、完成工事総利益率は向上しました。

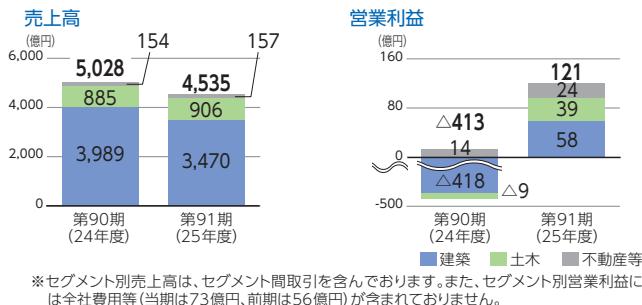
この結果、当期の連結売上高は前期比9.7%減少し、4,489億円となり、売上総利益率は5.7%と前期比10.6ポイント上昇し、売上総利益は254億円となりました。

#### Point 2 経費削減と保有資産の見直し

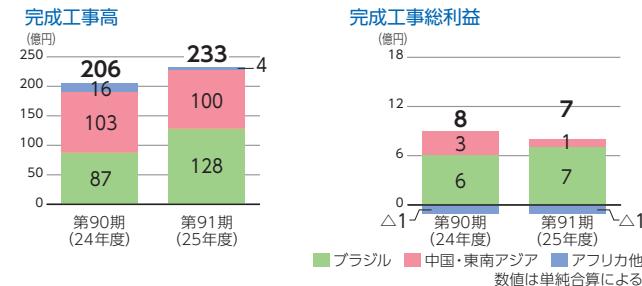
販売費及び一般管理費は、経費の削減等により前期比7.7%減少し206億円となりました。

また、投資有価証券の保有状況を見直し、売却を進めたことにより、投資有価証券売却益41億円を特別利益として計上しています。

### セグメント別 売上高等



### 建設セグメント海外地域別 完成工事高等

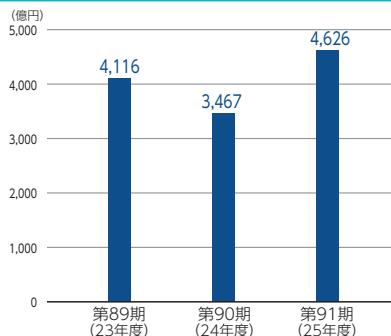


#### Point 3 海外事業

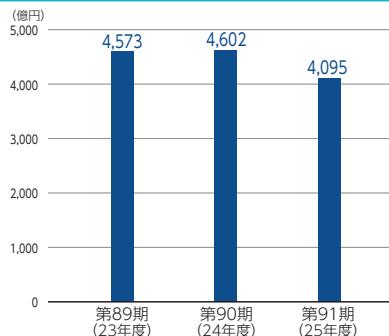
完成工事高は前期比13.1%増加の233億円となりましたが、完成工事総利益は中国及び東南アジアにおける不採算工事の影響をうけ前期比11.1%減少の7億円となりました。

なお、当期における海外建設受注高は新興国の成長鈍化・円安等の影響により、前期比34.3%減少の153億円となりました。

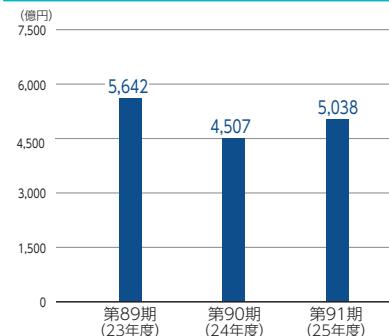
### 受注高(個別)



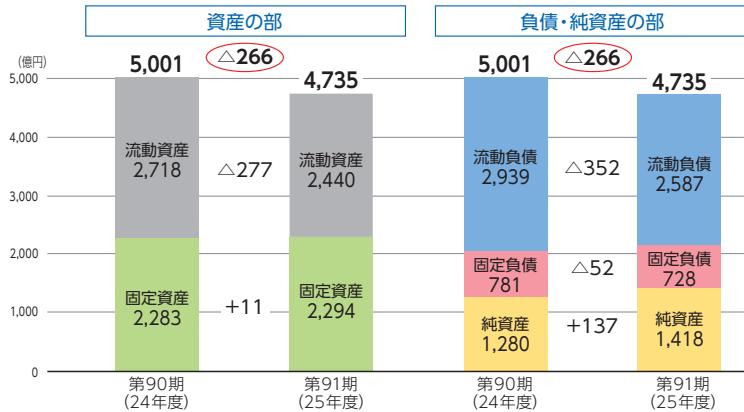
### 売上高(個別)



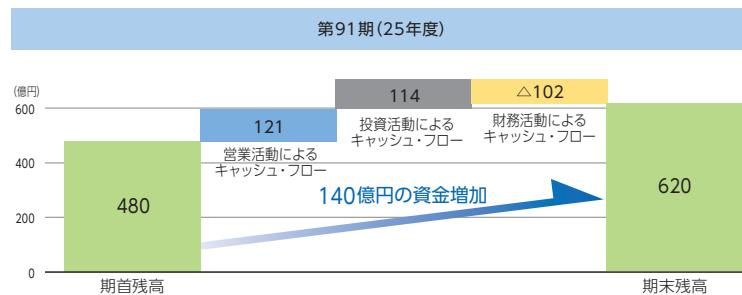
### 繰越高(個別)



## 連結貸借対照表のポイント



## 連結キャッシュ・フローのポイント



## Point 4 資産の部

有価証券が81億円、投資有価証券が42億円増加しましたが、受取手形・完成工事未収入金等の減少406億円、販売用不動産の減少34億円などにより、資産合計は、前期末と比較して266億円減少し4,735億円となりました。

## Point 5 負債の部

未成工事受入金が31億円、繰延税金負債が27億円増加しましたが、支払手形・工事未払金等の減少374億円、有利子負債の減少78億円、工事損失引当金の取崩76億円などにより、負債合計は、前期末と比較して404億円減少し、3,316億円となりました。

## Point 6 純資産の部

当期純利益の計上102億円、保有株式の時価上昇に伴うその他有価証券評価差額金の増加54億円などにより、純資産合計は、前期末と比較して137億円増加し1,418億円となり、自己資本比率は前期末比4.4ポイント改善し29.1%となりました。

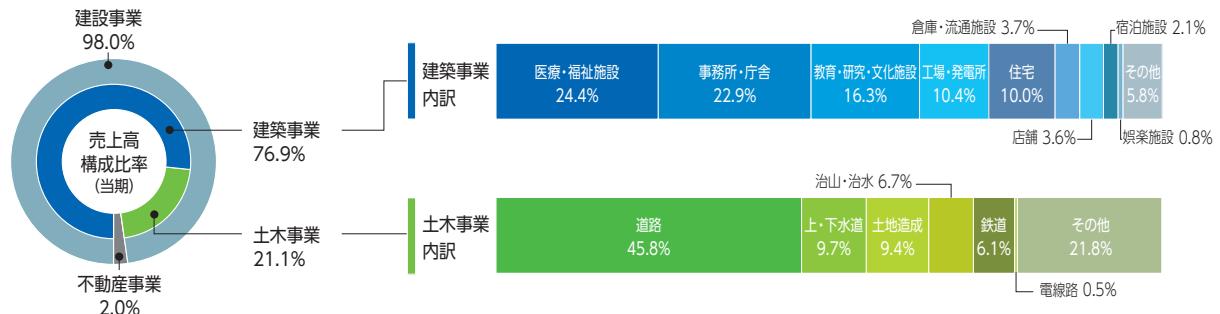
	第90期	第91期
1株当たり純資産額	397円18銭	443円32銭

## Point 7 連結キャッシュ・フローの状況

税金等調整前当期純利益が110億円となり、営業活動としては121億円の資金増加となりました。投資活動としては、有形固定資産や投資有価証券の売却により、114億円の資金増加となりました。財務活動としては、コマーシャル・ペーパーの償還等により102億円の資金減少となりました。

この結果、当期末における現金及び現金同等物は前期末に比べ140億円増加し、620億円となりました。

## 事業種別別 売上高構成比率(個別)



## ■ 会社概要

(平成26年3月31日現在)

### ● 主な事業所等

本店(東京都中央区京橋一丁目7番1号)

支店

- ・東京支店(東京都中央区)・千葉支店(千葉市)・関東支店(さいたま市)
- ・横浜支店(横浜市)・大阪支店(大阪市)・名古屋支店(名古屋)
- ・札幌支店(札幌市)・東北支店(仙台市)・広島支店(広島市)
- ・四国支店(高松市)・九州支店(福岡市)・国際支店(東京都中央区)

技術研究所(つくば市)

子会社

- ・戸田リフォーム(東京)
- ・アベックエンジニアリング(埼玉)
- ・千代田建工(東京)
- ・戸田道路(東京)
- ・千代田土地建物(東京)
- ・戸田ファイナンス(東京)
- ・東和観光開発(広島)
- ・千代田スタッフサービス(東京)
- ・戸田アメリカ
- ・戸田ブラジル
- ・戸田上海
- ・タイ戸田
- ・戸田ベトナム
- ・戸田フィリピン
- ・ABTD(フィリピン)

- (注) 1: 国際支店(東京都中央区)は平成26年4月1日に廃止し、新設された海外事業部へ業務を移管しました。  
2: 千代田土地建物と戸田リフォームは平成26年4月1日で合併し戸田ビルパートナーズになりました。

### ● 従業員の状況

従業員数 4,912名(連結) 3,918名(個別)

### ● 取締役および監査役(平成26年6月27日現在)

代表取締役社長	今井雅則	常勤監査役	野々口悦生
代表取締役	鞠谷祐士	常勤監査役	西牧悦志
代表取締役	宮崎泰	監査役	鍛冶良明
代表取締役	秋場俊一	監査役	鈴木勝利
取締役	戸田守道	監査役	秋草史幸
取締役	早川誠		
取締役	西澤豊		
取締役	大友敏弘		
取締役	植草弘		
取締役	下村節宏		
取締役	網谷駿介		

- (注) 1: 取締役下村節宏氏および網谷駿介氏は、社外取締役であります。  
2: 監査役鍛冶良明氏、鈴木勝利氏および秋草史幸氏は、社外監査役であります。  
3: 取締役下村節宏氏、網谷駿介氏および監査役鍛冶良明氏は東京証券取引所が指定を義務付ける一般株主と利益相反が生じるおそれのない独立役員であります。

## ■ 株主優待のご案内

毎年9月末時点の当社株主名簿に記載または記録された1単元(1,000株)以上保有の株主様を対象に、当社グループが保有・運営する「ホテル&リゾート サンシャイン サザンセット(山口県)」の宿泊割引利用券を贈呈いたします。

## 戸田建設株式会社

〒104-8388 東京都中央区京橋一丁目7番1号  
TEL.(03) 3535-1357  
<http://www.toda.co.jp/>

戸田建設

検索

## ■ 株式の状況

(平成26年3月31日現在)

- 発行可能株式総数 759,000,000株
- 発行済株式の総数 322,656,796株
- 株主数 12,727名
- 大株主

株主名	持株数(千株)
大一産殖株式会社	36,400
戸田秀茂	17,931
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE SILCHESTER INTERNATIONAL INVESTORS INTERNATIONAL VALUE EQUITY	17,176
株式会社三菱東京UFJ銀行	11,496
ノーザントラストカンパニー エイブイエフシー リューエスタックス エグゼンプテッド ペンション ファンス	10,085
戸田秀博	9,614
ビービーエイチ ポストン カストディアン フォー ブラックロック グローバル アロケーション ファンド インディング 620313	7,902
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	7,425
ノーザントラストカンパニー(エイブイエフシー)アカウント ノンリテー	7,345
株式会社みずほ銀行	7,107

- (注) 1: 上記のほか当社所有の自己株式11,482千株があります。  
2: 戸田秀茂氏の持株数は、戸田建設役員持株会における持分を含めた実質所有株式数を記載しております。

## ■ 株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
配当金受領株主確定日	3月31日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL.0120-232-711(通話料無料)
上場金融商品取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告により行います。 公告掲載URL <a href="http://www.toda.co.jp/">http://www.toda.co.jp/</a> ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に公告いたします。

### (ご注意)

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記載された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



見やすいユニバーサルデザイン フォントを採用しています。 環境保全のため、FSC®認証紙と植物油インキを使用して印刷しています。